

## 検査様式4

### 実施可能な認知機能検査（主なもの）

#### ●認知障害のスクリーニングとして実施

- ・HDS-R/MMSE、OLD
- ・COGNISTAT：見当識、注意、理解、判断、記憶、計算等、どの能力がどれだけ低下しているか、もしくはどれだけ維持しているかが評価できる。軽度認知障害（MCI）の方に実施することが多い。所要時間30分～1時間。【80点】
- ・MEDE 多面的初期認知症判定検査：見当識、意味記憶、短期記憶等を評価するとともに、もの忘れ等についての自己評価が分かる。また家族等、他者から見たその人のもの忘れ等の程度が評価（他者評価）できる。所要時間30分～1時間。【80点】

#### ●より詳細な検査として

- ・ADAS-J：アルツハイマー型認知症の方を対象にした検査。認知能力の経年変化を追う際の評価ツールとして用いることができる。再生、再認、構成行為、観念運動、喚語、見当識、呼称等の項目がある。所要時間1時間～1時間30分。【450点】
- ・バンダーグシュルト(BGT)、コース立方体組み合わせ、ベントン視覚記銘検査：  
いずれも、器質的な問題の程度や、特に視覚構成・視空間認知が評価できる検査。血管性認知症やレビー小体型認知症の方に実施することが多い。所要時間それぞれ30分。【80点～280点】
- ・FAB：前頭葉機能の検査。類似性（概念化）、語想起（流暢性）、運動順序（プログラム能力）、闘争指示（干渉に対する感受性）、抑制性制御、把握行為（自動症）といった課題項目がある。前頭側頭型認知症の方に実施することが多い。所要時間30分。
- ・NPI：質問形式で行う心理検査で、BPSD の評価を行う。当事者本人ではなく、主な介護者に対して実施。項目は、妄想、幻覚、うつ、不安、脱抑制、認知機能変動等12項目。また Zarit という検査と組み合わせ、介護の負担度も評価可能。所要時間1時間。【80点】
- ・WMS-R：記憶に特化した検査で、視覚記憶や聴覚記憶等、modality 別に評価。所要時間1時間30分。【450点】
- ・WAIS-III：知能検査。知能指数IQ（言語性IQと動作性IQ）が算出でき、また言語理解、知覚統合、作動記憶、処理速度といった項目の評価や能力のバラツキの有無等も評価できる。所要時間2時間。【450点】
- ・その他、WAB失語症検査、BADs 遂行機能検査、WCST ウィソツツ・カード・リテイング 検査（遂行・切り替え・柔軟さ）、ストループ検査（注意評価）等

#### ※抑うつや不安、アパシーなど状態像の評価として（但し認知障害の程度が強いと実施できない）

- ・SDS、CES-D：質問紙（アンケート形式）心理検査で、抑うつ状態の有無や程度等を評価するもの。所要時間15分～30分。【80点】
- ・HAM-D：半構造化面接（問診のような）で行う心理検査。抑うつ状態の有無や程度、また、どのような側面でうつが現れているかを評価するもの。所要時間30分～1時間。【80点】
- ・POMS：不安、抑うつ、緊張等、気分の状態を評価する、質問紙（アンケート形式）心理検査。所要時間30分～1時間。【80点】
- ・MMPI：気分の状態や精神状態、また性格傾向を把握するための質問紙（アンケート形式）心理検査。病態レベルの把握といったスクリーニングとしても用いられる。所要時間1時間～1時間30分。【280点】

以上